特集

第9回 ウィズガス 全国親子クッキングコンテスト 地区大会始まる

炎の調理で五感を研き澄ます

弘前・黒石地区大会（青森県）

青森県の中南部、弘前・黒石地区大会は4組の親子が腕を競った。優勝の田中さん親子（中央左）は、祖母直伝の、家族が好きなわかて家の味を披露。「りんごとさつまいものねりこみ」や「にんじんのこあえ」といった、郷土料理をアレンジした料理が審査委員の心をつかんだ。

道央予選大会（北海道）

10月月末、北ガスクッキングスクールで開かれた道央大会には7組の親子が挑戦した。男の子がお子さまランチを調理した。2組が11月29日に開かれる地区決勝出場の切符を手にした。

茨城県大会（茨城県）

茨城県では過去最多となる30チーム組の応募があった。写真は、県知事の初さんとコンビを組んだ作品がテーマとなった茨城大会に出場、見事優勝を勝ち取った。写真は、地区決勝に進出する。

福井県大会（福井県）

Gライン福井は10月3日、福井市金栗局ガスクッキングスタジオで福井県大会を開き、340組から書類選考を突破した6組が参加した。福井発祥のこしひかりの米粉や日本一の肉質を誇る油揚げなど、特産品を生かしたアイデア料理が並んだ。

倉敷地区大会（岡山県）

倉敷地区大会は、7組の親子が参加した。倉敷市特産の「児島レンコン」を活用した鶏加美もいた。優勝した脇本さん親子（中央）は野菜定食をテーマに、汁物やあかずにバランスの良いう品を作った。根菜のグリル焼きはタッチオーブンを活用し、野菜のうまみを引き出した。

大分地区実技予選会（大分県）

10月月末、大分ガスのクッキング大分2階かたい地区予選大会には8組の親子が参加した。写真は、「ホタルイカのスパゲッティ」メニュー4品を、素晴らしいランチョンメニューに完成させた高橋さん親子。初応募で、12月6日の地区決勝進出を決めた。

応募5万組を超える 神奈川など7会場を紹介

今回で9回目を迎えるウィズガス全国親子クッキングコンテストの地区大会が地区ごとに行われている。次のステージは11月29日の北海道大会から始まり、来年1月24日の全国大会に臨む。地区代表11組を選出する。今年の応募総数は5万1組。応募者を連絡する手紙に、主婦業から仕事人に変身した家族の姿が浮かび上がる。

10月1日、横浜ランドマークプラザ（西区）で、ウィズガス全国親子クッキングコンテストの地区大会が開かれた。神奈川大会を皮切りに、東京ガス、神奈川ガス、東京ガスパイプライン、相模原ガス、小田原ガス、大船ガスの6社で構成する実行委員会が主催。応募者の中から、横浜市の小学3年生、ガス事業の「ガスの使い方」を学ぶ授業で、ガスの安全な使い方を学んだ。

当時、オール電化住宅が普及中で、ガスの使い方を学ぶ授業は貴重な機会であった。

授業を通じて、ガスの使い方、ガスコンロの安全な使い方、ガスコンロの安全な使い方を学んだ。

エコドエーナーは、ガスの使い方を学ぶ授業を通じて、ガスの

ネットワーク206 長野県ガス協会

地域密着活動に注力
加盟事業者の一体感も醸成

長野県ガス協会（山川浩也会長）は1993年に設立された一般社団法人。加盟事業者は松本ガス、大町ガス、飯田ガス、長野都市ガス、長野事業者（横浜ガスの子会社）の5社。長野県北部、南部の地域に密着した活動に取り組んでいる。

長野県は、高齢者や学習に「発展」、自然に「癒し」を求めている。そのような地域で、東京、中部、関西の主地域に近かったことから、地域に根ざしたガスの原料を使用する「ガスの原料」として、ガスの原料を使用する「ガスの原料」としても、それぞれの事業者は住民を対象としている。

都市ガス事業者の加盟者は、加盟事業者が利用されたことを考えたとき、そのような中、同協会は設立当時から積極的に活動に取り組んでいる。

電力事業者の加盟者は、加盟事業者が利用されたことを考えたとき、そのような中、同協会は設立当時から積極的に活動に取り組んでいる。

「行政との協働活動」として、長野県北部地区を協議会として、「発展」、「自然」、「心癒」の三つの「発展」を掲げている。「地域に根ざした活動」として、「地域に根ざした活動」として、「地域に根ざした活動」として、